

主催：徴用工問題を考える市民の会  
協力：Peace Philosophy Centre  
在日差別をなくす会



釜山の国立日帝強制動員歴史館の展示より

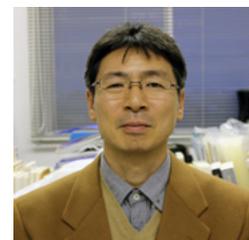
オンライン講演会

# 徴用工問題はなぜ “解決済み”ではないのか： 5つのポイント

2021年 **11**月 **7**日 日

11:00-12:30 (日本時間) **参加無料**

講師：吉澤文寿 (新潟国際情報大学国際学部教員)



吉澤文寿 (よしざわ ふみとし)

新潟国際情報大学国際学部教員。専門は朝鮮現代史。主な著書として、『(新装新版) 戦後日韓関係—国交正常化交渉をめぐって』(クレイン、2015年)、『日韓会談 1965 戦後日韓関係の原点を検証する』(高文研、2015年)、編著として『歴史認識から見た戦後日韓関係 「1965年体制」の歴史学・政治学的考察』(社会評論社、2019年)、『日韓会談研究のフロンティア 「1965年体制」への多角的アプローチ』(社会評論社、2021年)がある。



釜山にある国立日帝強制動員歴史館の展示より。  
中・西部太平洋戦線に送られた朝鮮人のコーナー。  
「朝鮮人は防空壕に入ることはいできない」との立て看板がある。

今年、元「徴用工」への日本企業の賠償を命じた2018年の韓国大法院判決から3年経ちます。この間、日本政府やメディアは「韓国が国際法違反をしている」「1965年の日韓請求権協定でこの問題は“解決済み”である」「対策を取るべきは韓国である」という言説を繰り返してきました。私たち「徴用工問題を考える市民の会」はこの1月に、「徴用工問題は“解決済み”ではありません。今こそ被害者の人権と尊厳の回復を求めます。」という署名を Change.org で立ち上げました。戦後日韓関係の専門家であり、この署名の呼びかけ人の一人でもある吉澤文寿さんに、いま一度、この問題についてわかりやすい解説をお願いしました。ふるってご参加ください。

参加をご希望の方は以下の URL または右の QR コードより事前登録をお願いします。

Zoom ウェビナー事前登録リンク：<https://00m.in/dHABi>



お問い合わせ：徴用工問題を考える市民の会 <choyokomondai@gmail.com>